

美浜町における地域福祉の課題と方向性

美浜町

目次

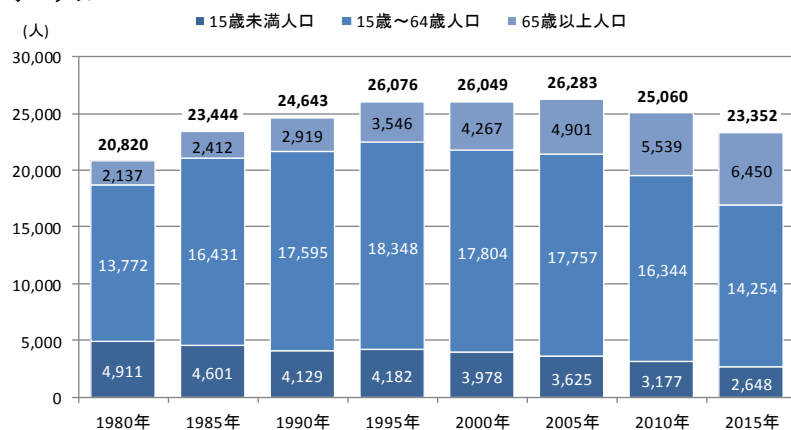
I. 美浜町における地域福祉の現状.....	1
美浜町の資源①（人材）.....	1
美浜町の資源②（施設）.....	5
美浜町の資源③（財源）.....	7
美浜町の資源についてのまとめ.....	8
II. 地域福祉の担い手としての地域住民.....	9
住民間の距離.....	9
住民間の交流の場への参加状況.....	11
現状の地域への評価.....	12
III. 協働のまちづくりを進めるために（共助・公助）.....	15
社会福祉協議会への認知度と期待.....	15
社会福祉協議会に求めるもの.....	15
「協働のまちづくり」を進めるうえで必要な取り組み.....	16
共助による「協働のまちづくり」に向けて.....	16
IV. 地域福祉の前進を評価する.....	17
PDCA サイクル重点化のための指標設定「階層構造化指標」.....	17
地域へ愛着度、住みやすさ、信頼度（アウトカム指標例）.....	17
V. 総括.....	18

I. 美浜町における地域福祉の現状

美浜町の資源①（人材）

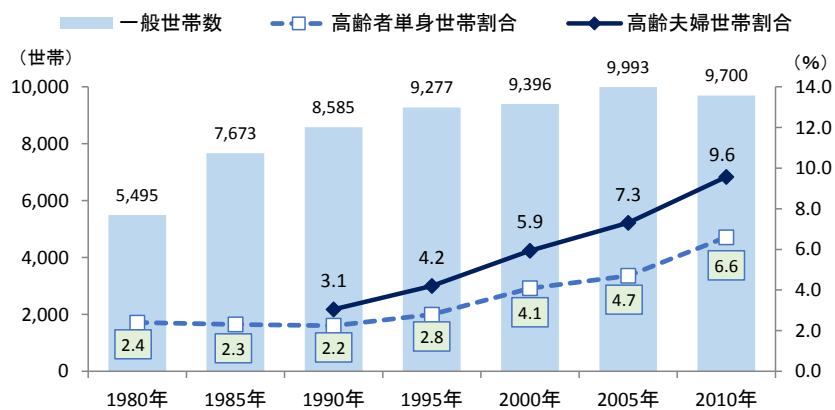
地域福祉は、自助、共助、公助の視点で語られますが、いずれにしても「地域に住む人」が私的・公的な立場から支え合うことで成り立つものといえます。そのためまずは、美浜町にどのような人たちが生活をしているのかを整理します。

図表 1 美浜町の人口



図表 2 高齢者世帯割合

出典：国勢調査（各年）

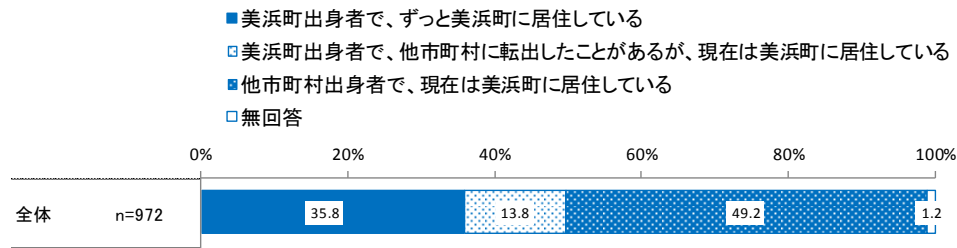


出典：国勢調査（各年）

(1)美浜町においては、人口が 2005 年をピークに 2010 年から減少傾向となっています。

(2)年少人口と老年人口は 2000 年時点で老年人口が逆転し、2015 年には 65 歳以上人口が 15 歳未満人口の 2 倍となっています。また、高齢者単身世帯+高齢夫婦世帯の割合が 1990 年時点の 5.3%から 2010 年には 16.2%と増加しています。

図表 3 地域住民の構成状況



出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

図表 4 地域住民の構成（地域別）

	（％）									
	布土	時志	北方	浦戸	河和	古布	矢梨	切山	小野浦	細目
調査数(人)	136	11	69	14	238	35	31	8	12	11
美浜町出身者で、ずっと美浜町に居住している	36.0	45.5	40.6	35.7	28.2	40.0	51.6	62.5	41.7	63.6
美浜町出身者で、他市町村に転出したことがあるが、現在は美浜町に居住している	13.2	9.1	11.6	21.4	14.3	11.4	6.5	25.0	25.0	18.2
他市町村出身者で、現在は美浜町に居住している	50.7	45.5	47.8	42.9	56.3	48.6	38.7	12.5	33.3	18.2
無回答	-	-	-	-	1.3	-	3.2	-	-	-

	一色	柿並	若松	奥田南	奥田中	奥田北	上野間	美浜緑苑	その他
調査数(人)	16	60	24	67	21	47	80	71	11
美浜町出身者で、ずっと美浜町に居住している	31.3	36.7	37.5	44.8	57.1	40.4	48.8	8.5	18.2
美浜町出身者で、他市町村に転出したことがあるが、現在は美浜町に居住している	12.5	20.0	25.0	19.4	9.5	14.9	11.3	4.2	27.3
他市町村出身者で、現在は美浜町に居住している	56.3	41.7	37.5	34.3	33.3	42.6	38.8	87.3	54.5
無回答	-	1.7	-	1.5	-	2.1	1.3	-	-

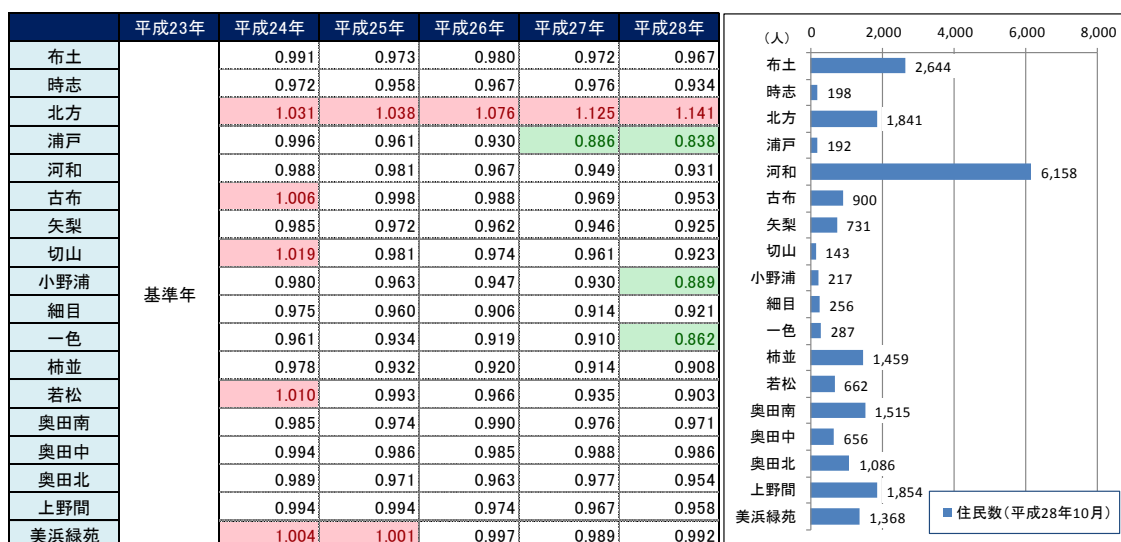
出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

(1)地域福祉の質の向上は、近所同士のつながりが影響を与えます。美浜町においては、地域住民の約半数が美浜町外の出身者となっており、「新たな住民」として各地域がどのように受け入れるかによって、住みやすさが変化するものと思われます。

(2)特に「美浜緑苑」は約 9 割が他市町村からの I ターン者となっており、住民同士のつながりを強める方法を検討していく必要があるといえます。それ以外にも 4 割以上 I ターン者である地域が 17 地域中 10 地域となっており、在住していた住民との関係を円滑にすることで、地域住民同士の関係向上につながり、ひいては地域福祉の質の向上につながると考えられます。

地域別に検討を行う際には、それぞれの地域特性と意向を把握しておく必要があります。その地域にある資源（人、共同体、福祉施設、主産業等）の中でも人口の状態について整理します。

図表 5 地域別の人口の増減（過去 6 年間）



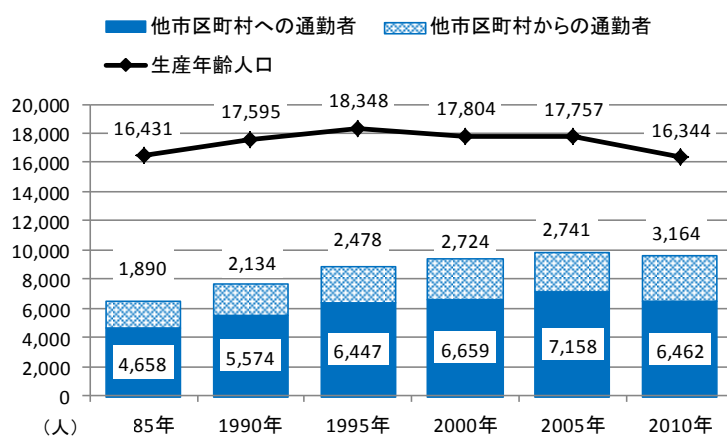
出典：住民基本台帳各年 10 月（赤色は基準年より増加、緑色は基準年より 10%減少）

(1)地域別にみると、平成 23 年を基準年として経年比較すると、平成 24 年度時点では、北方、古布、切山、若松、美浜緑苑が増加したが、それ以降は北方地域のみ増加傾向となっています。北方地域は、基準年と比較すると約 14 ポイント増となっており、住民の増加傾向が伺えます。一方で浦戸、小野浦、一色では、10 ポイント以上減となっており住民の減少傾向が進んでいます。

(2)人口についても平成 28 年度 10 月時点でばらつきが大きく、1,000 人以上が 8 地域あるのに対して、300 人以下が 6 地域となっています。そのため、人口が少ない地域においては、地域間の連携を図って人的資源を補うなどの視点も重要になると考えられます。

(3)地域には外国人のみならず、大学生や医療関係機関で働き町内の寮に住む人も存在します。また、平成 25 年から特別養護老人ホーム（ビラ・オレンジ）が開設されています。そのため、様々なライフスタイルの人をどのように地域とのつなげていくのかを地域ごとに十分検討することが必要です。

図表 6 人口の変化について



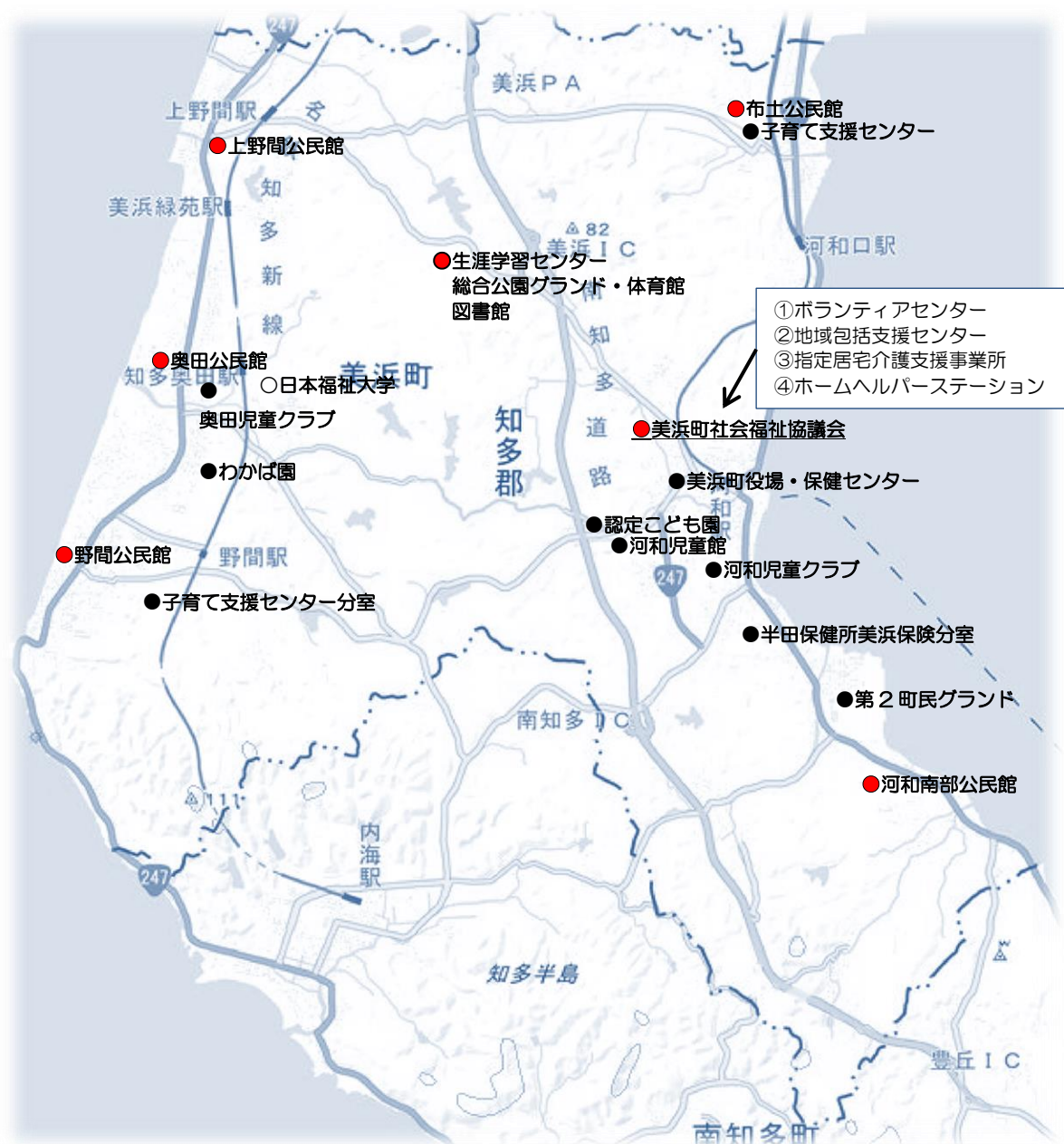
出典：国勢調査

(1)生産年齢人口における、他市町村への通勤者数は、1985年次点の約3割から2010年には約4割へと増加しています。通勤時間帯は様々ですが、生産年齢人口の市外通勤割合が高くなると、生活圏における人口は老年人口の占める割合がより高くなると予想されます。そのため老年人口の中から支援者側となる人材を育成することが大切であると考えられます。

美浜町の資源②（施設）

地域福祉拠点の維持・強化・整備をしていくにあたり、既存の福祉施設の現状を把握し、位置づけを明確にすることは重要なことといえます。そのため、現在の美浜町における地域福祉関連施設について整理していきます。

図表 7 地域福祉関連施設（公共施設）



地図出典：国土地理院 HP（地理院地図＜電子国土 web＞）

○その他の地域福祉拠点（可能性）施設及び活動広場

施設種類	施設数	施設種類	施設数
子育て施設	7 施設	文化・体育施設	1 施設
学校教育施設	8 施設	公園・広場	4 6 施設

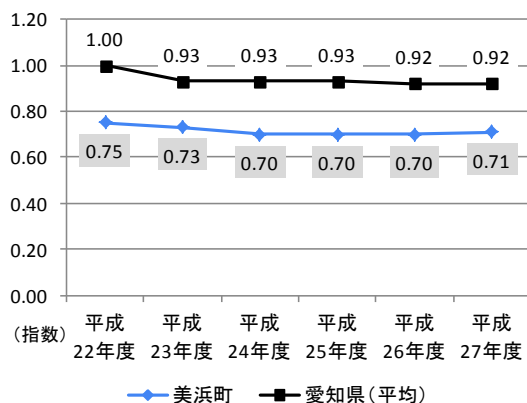
出典：美浜町公式 HP

- (1)現在美浜町では、地域福祉の拠点施設（社会福祉協議会、公民館）が人口集積の多い海岸線を中心に、一定のバランスで立地しており、今後も地域づくりの拠点として活用が見込めます。また、生涯学習センターが中央に位置することで、地域福祉拠点として機能しています。
- (2)子育て関連施設については、海岸線を中心に設置されていますが、町の北西部や南東部、そして中央部に設置されていません。そのため将来の子育て家庭数を考慮に入れつつ、保護者に必要な支援が行き届く体制を作っていく必要があります。
- (3)子育て施設（保育所・認定こども園）と学校教育施設は、計 15 施設存在します。現在も児童クラブ等で活用されている施設も存在しますが、今後もさらに地域住民の支え合いの場として位置付けていくことが求められます。
- (4)美浜町には日本福祉大学が立地しています。大学との連携により、様々な福祉施策を実施し、地域福祉の向上に向けて協働しています。

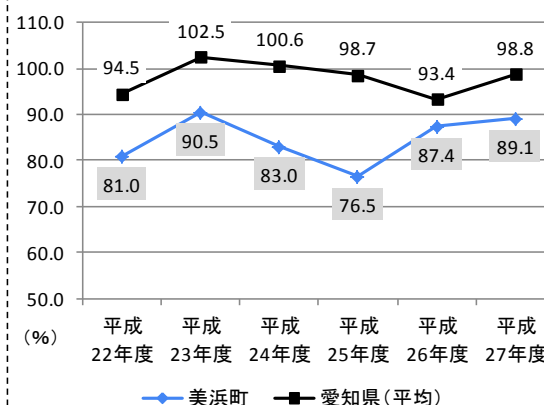
美浜町の資源③（財源）

地域福祉の公助の部分として、行政は大きな役割を担っています。地域福祉を影から支援する様々な対策を講じていくにあたり、その資本ともいえる財源の状況について整理していきます。

図表 8 財政力指数



図表 9 経常収支比率

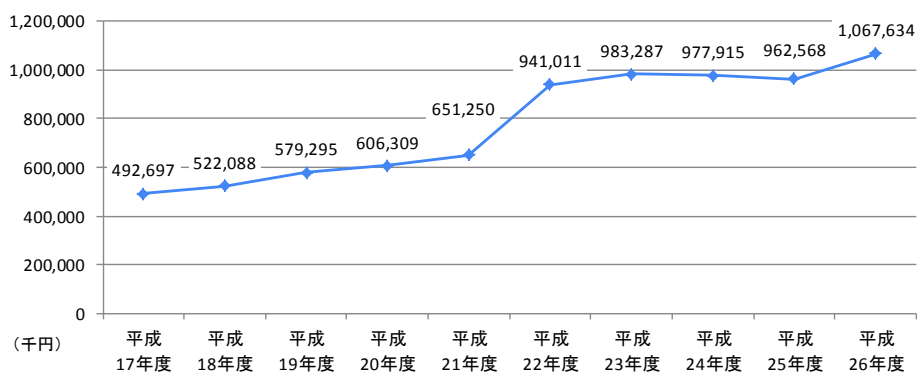


出典：地方公共団体の主要財政指標一覧（各年）

(1)財政力指数は、平成27年度までの6年間は0.70~0.75前後を推移しています。愛知県内市町村平均と比較すると0.20程度低くなっており、また、収支のバランスが良いとされている1.00、財源に余裕があるとされる1.00以上の基準と照らし合わせると低い数値となっています。

(2)経常収支比率は、平成25年度を除いて、一般的に適正水準といわれる70.0%~80.0%を超えて、80.0%~90.0%の間を推移しています。そのため、美浜町の財政構造の弾力性が低下してきている状態と判断できます。

図表 10 扶助費（歳出）



出典：総務省（決算カード）

(3)社会福祉分野に関わる扶助費は、平成 26 年度までの 10 年間で増加傾向となっています。(平成 22 年度の上昇は子ども手当等の国の施策が影響しているものと想定される。) また、今後地域の高齢化が進むにつれて、医療や福祉分野での歳出が増加することが予想されます。地域福祉分野の公助において、福祉施策の選択と集中または補助金など行政の財政に頼らない自助、共助の仕組みづくりなどを進めていく必要があると思われます。

■ 美浜町の資源についてのまとめ

美浜町においても少子高齢化が進み、福祉サービスの利用希望者が増加する一方で、地域福祉の担い手の高齢化や減少が想定されます。また、地域住民構成も地域差があるものの、I ターン者が半数を占める地域もあり、いかに地域社会につなげていくのが重要なポイントとなってくると考えられます。

施設については、既存の福祉施設が一定数存在するため、既存の施設を利用しつつも実質的にサービス漏れの立場となっている住民の受け皿について、ソフト・ハードの両面で考えていく必要があると考えられます。

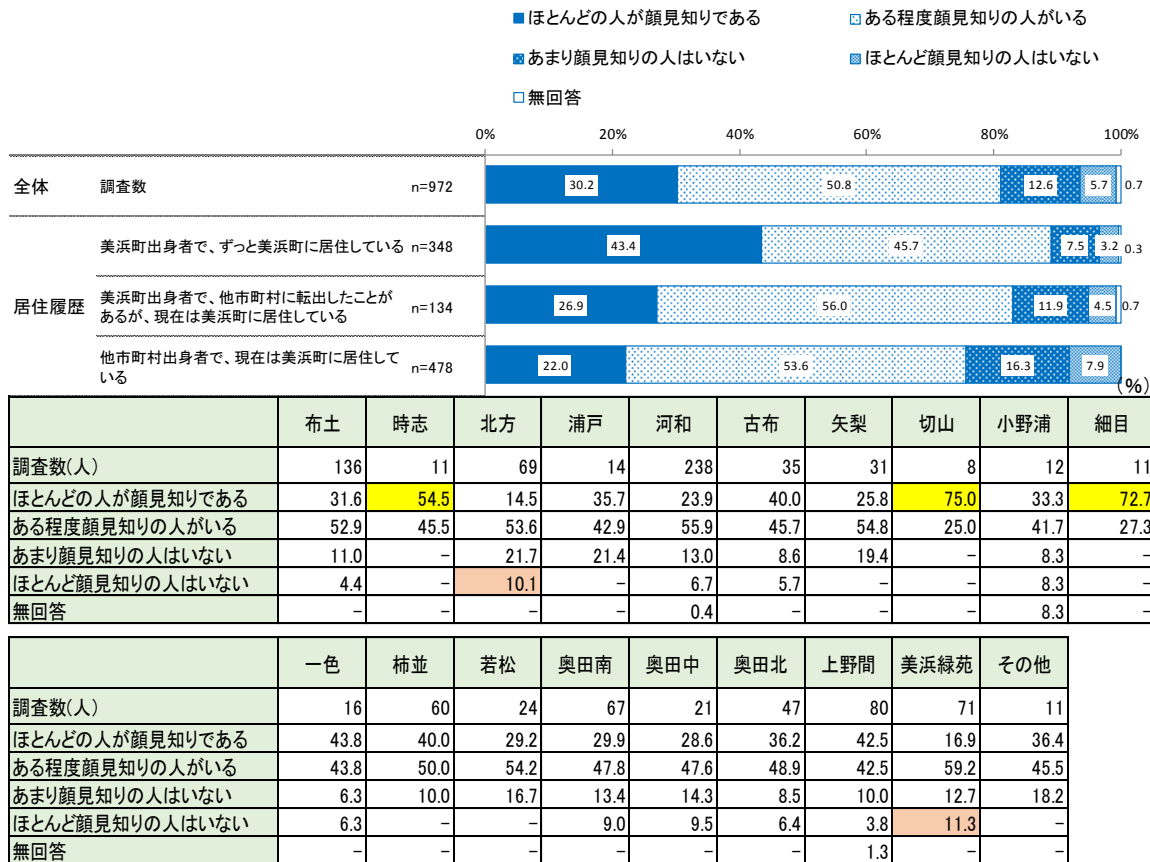
財政面においては、財政力指数が 0.70~0.75 を推移しており、経常収支比率が 80%を超えています。そのため、財政の弾力性が低くなりつつあるのと同時に財源に余裕がある状況とはいえません。また、扶助費も増加傾向にあり、社会福祉サービスを強化する上で、どのように財源を捻出または折り合いをつけるのかは重要な検討事項といえます。

Ⅱ. 地域福祉の担い手としての地域住民

地域福祉を向上させるためには、地域住民同士の関わりあい方はとても重要な要因となります。この点について調査結果をもとに現状を整理します。

住民間の距離

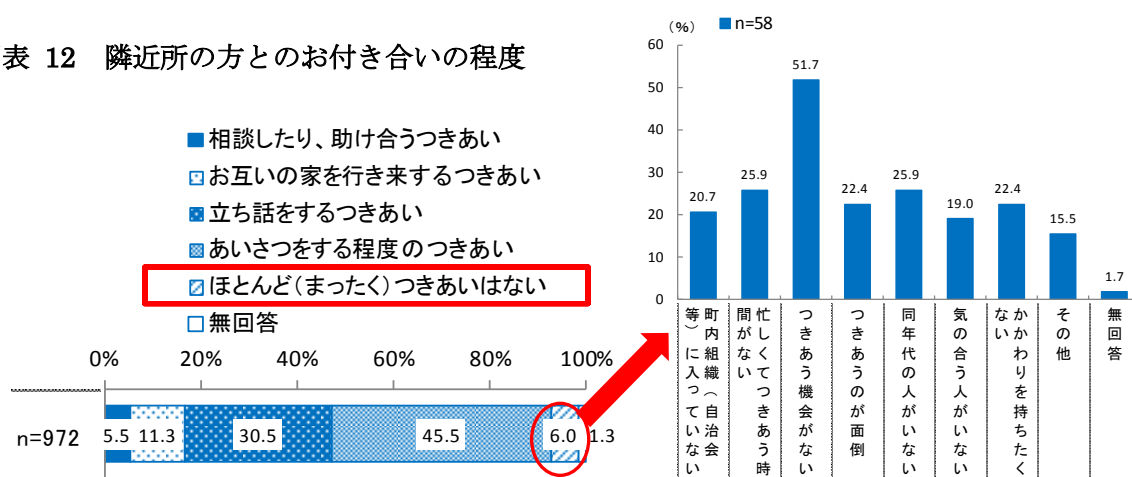
図表 11 隣近所における顔見知りの有無



出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

(1)隣近所における顔見知りの度合いは、ずっと居住>Uターン者>Iターン者の順で高くなっています。また、地域人口規模が 300 人以下の時志、切山、細目では「ほとんどか顔見知り」の割合が高くなっている一方で、唯一地域人口が増加している北方地域で「ほとんど顔見知り人はいない」10.1%となっています。美浜緑苑については、地域人口の約 9 割が I ターン者となっていることから、11.3%と全体の中で最も高い数値になっているものと思われます。

図表 12 隣近所の方との付き合いの程度



	布土	時志	北方	浦戸	河和	古布	矢梨	切山	小野浦	細目
調査数(人)	136	11	69	14	238	35	31	8	12	11
相談したり、助け合うつきあい	3.7	-	4.3	-	3.4	11.4	6.5	25.0	16.7	18.2
お互いの家を行き来するつきあい	13.2	27.3	7.2	14.3	9.2	14.3	16.1	37.5	16.7	18.2
立ち話をするつきあい	32.4	54.5	30.4	14.3	29.4	31.4	22.6	-	33.3	36.4
あいさつをする程度のつきあい	47.1	18.2	47.8	64.3	50.0	37.1	54.8	37.5	33.3	18.2
ほとんど(まったく)つきあいはない	2.2	-	8.7	-	7.6	5.7	-	-	-	9.1
無回答	1.5	-	1.4	7.1	0.4	-	-	-	-	-

	一色	柿並	若松	奥田南	奥田中	奥田北	上野間	美浜緑苑	その他
調査数(人)	16	60	24	67	21	47	80	71	11
相談したり、助け合うつきあい	6.3	8.3	8.3	6.0	4.8	2.1	7.5	7.0	-
お互いの家を行き来するつきあい	18.8	10.0	12.5	11.9	4.8	6.4	11.3	9.9	18.2
立ち話をするつきあい	37.5	36.7	25.0	32.8	9.5	31.9	37.5	29.6	9.1
あいさつをする程度のつきあい	25.0	40.0	45.8	38.8	66.7	48.9	36.3	49.3	63.6
ほとんど(まったく)つきあいはない	12.5	3.3	8.3	10.4	14.3	10.6	3.8	4.2	9.1
無回答	-	1.7	-	-	-	-	3.8	-	-

出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

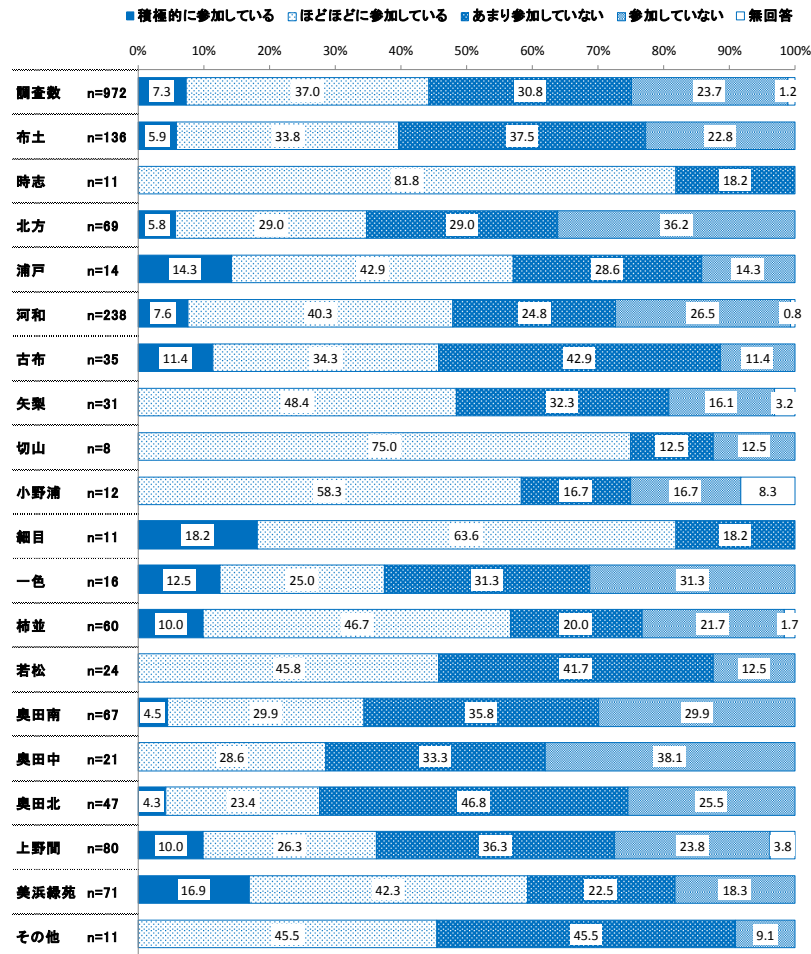
(1)全体としては、隣近所とあいさつをする程度の付き合いが 45.5%と最も高くなっていますが、立ち話以上（立ち話をする＋お互いの家を行き来する＋相談したり、助け合う）の付き合いが 47.3%と半数近くとなっています。話をすることのできる関係が構築されていることは、地域福祉を進める上でとても貴重な財産といえます。

(2)地域別にみると、地域人口規模が 300 人以下の切山、小野浦、細目では「相談したり、助け合う付き合い」が 15%以上となっています。一方で 300 人以下の時志、浦戸では 0.0%、一色では 6.3%となっているため、人口規模が低いことが必ずしも、結びつきの強さにつながっているとは言えないようです。特に地域人口の少ない地域の支え合う仕組みは重要となってきますので、切山、小野浦、細目の地域福祉の参考モデルとして調査分析を行うことも一つの手段として考えられます。

住民間の交流の場への参加状況

地域住民が交流をすることは、地域における安心・安全に寄与すると同時に、地域福祉の共助の支えとなりうるものです。そこで、つながりをつくり深める場として、地域活動や行事への参加状況について、各地域の状況を確認します。

図表 13 地域活動や行事への参加状況



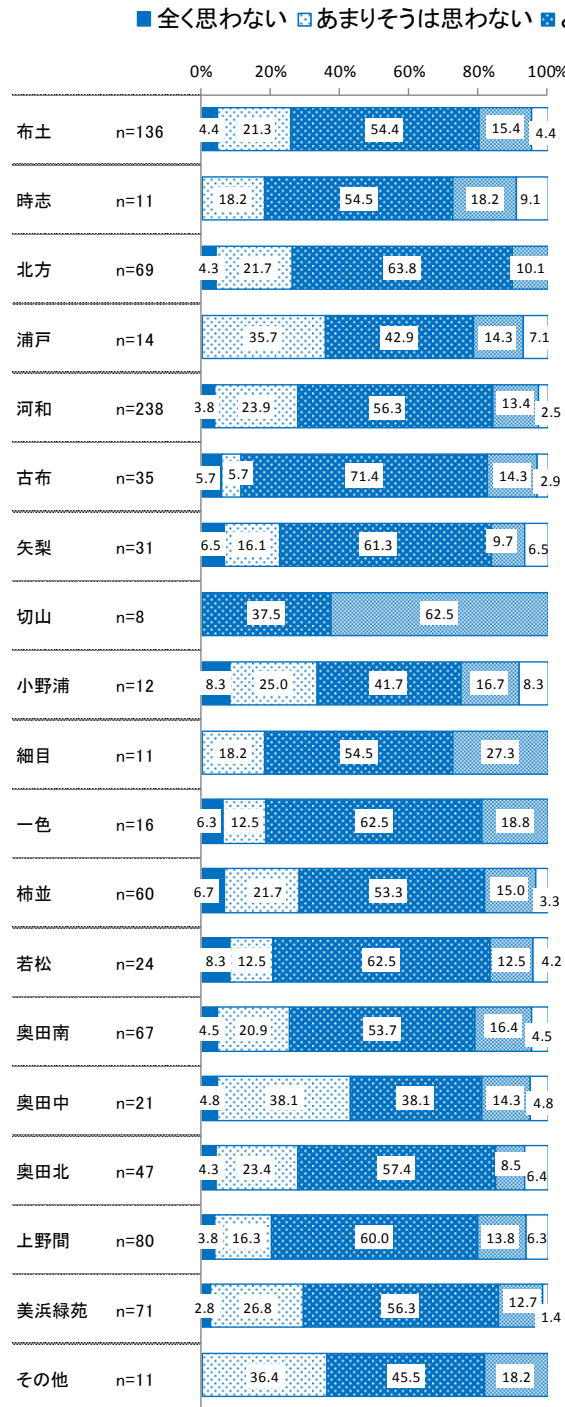
出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

(1)全体的には、「積極的に参加している」+「ほどほどに参加している」が約 4 割、「あまり参加していない」+「参加していない」が約 5 割となっています。

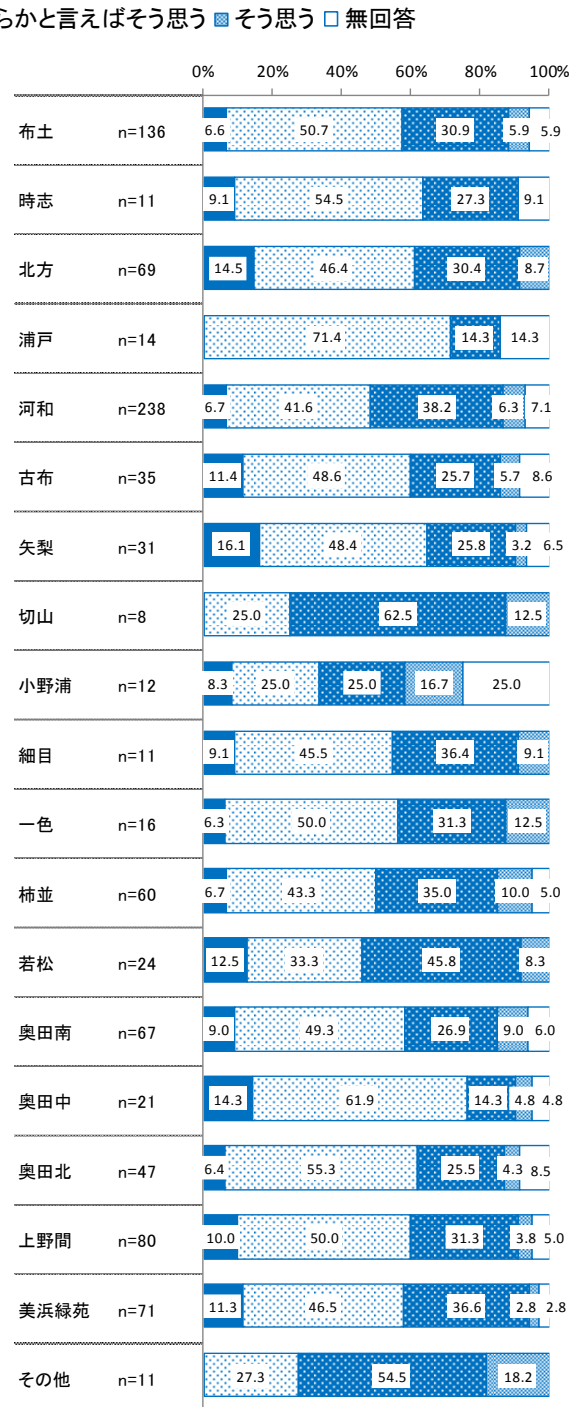
(2)地域別にみると、隣近所との付き合いが「ほとんど（まったく）ない」と答えた割合が高い、奥田南、奥田中、奥田北地域では、「あまり参加していない」、「参加していない」割合が高くなっています。また、地域人口が増加している北方でも奥田地域同様の結果となっています。その一方で、I ターン者が 9 割を占める美浜緑苑では全体平均より参加割合が高くなっているため、要因分析が必要になると思われます。

現状の地域への評価

図表 14 隣近所間どうしの関係
が良好である（つながり）

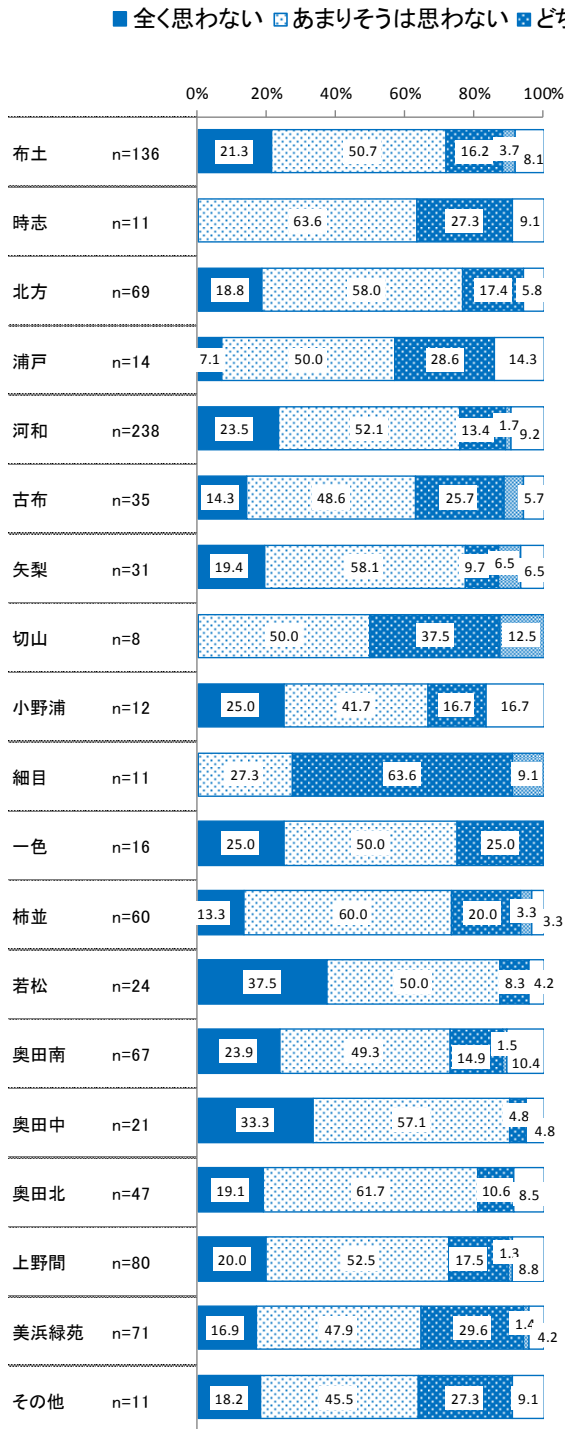


図表 15 福祉施設・サービス
が充実している（公助）

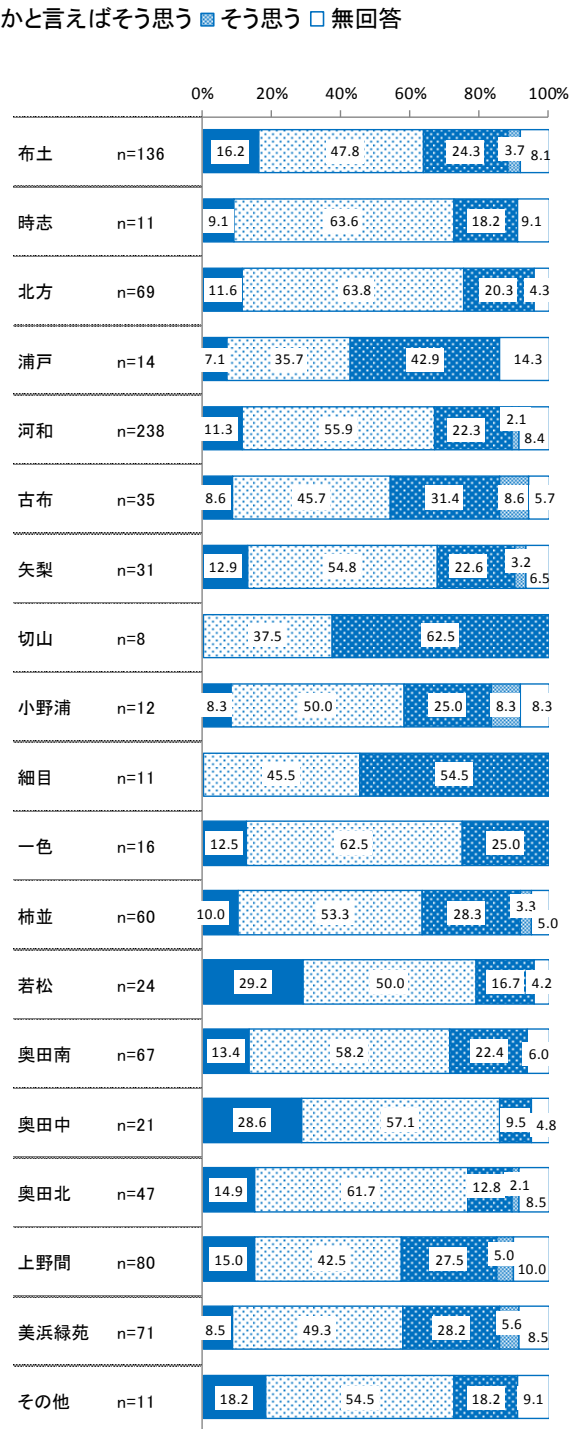


出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

図表 16 地域課題に対して住民
同士で話し合う環境
がある（共助）



図表 17 地域の活動・
ボランティア活動
が盛んである（共助）



出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

(1) 隣近所間どうしの関係が良好であるかについては、どの地域においても、「そう思う」 + 「どちらかといえばそう思う」との回答が半数以上となっています。そのため美浜町においては、いずれの地域でも過半数以上が隣近所間の関係について現時点で良好と考えていることがわかります。その一方で、「あまりそうは思わない」 + 「全く思わない」が 30%以上となっている地域が、浦戸、小野浦、奥田中の 3 地域あり、これらの地域にては特に注意深く分析をしていく必要があると思われます。

(2) 公助の部分である福祉施設・サービスが充実しているかについては、「あまりそう思わない」 + 「全く思わない」が過半数を超えていない地域が、切山、小野浦、若松の 3 地域のみとなっています。この結果から全体的に福祉施設やサービスについてはあまり充実していないと感じているものと思われます。福祉施設やサービスと一言でいっても様々あるため、社会福祉協議会へのニーズ等も踏まえた上で、どの部分に「公助」として力を集めるのかを検討する必要があると思われます。

(3) 地域課題に対して住民同士で話し合う環境があるかについては、「あまりそう思わない」 + 「全く思わない」が 7 割以上を占めている地域が 11 地域となっています。特に布土、河和、小野浦、一色、若松、奥田南、奥田中、上野間の地域については、「全く思わない」が 20%となっており、現状では、地域福祉の主役である地域住民間の話し合いの環境が必ずしも良いとは言えないことがわかりました。

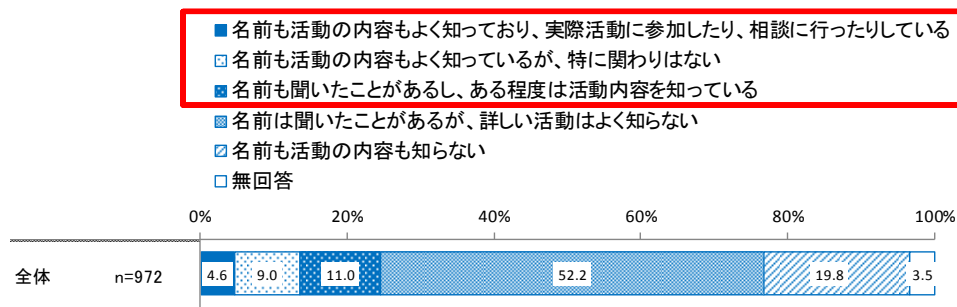
(4) 地域の活動・ボランティア活動が盛んであるについては、「どちらかといえばそう思う」 + 「そう思う」の傾向が、「地域課題に対して住民同士で話し合う環境がある」と類似していることがわかりました。

美浜町の地域福祉の現状として、地域間のつながりは比較的良好なもの、地域内での課題解決や地域活動、ボランティア活動は活発とは言えない状態であることがわかりました。今後は、地域住民同士のつながりという強みを生かしながら、地域住民同士で地域課題に向き合い、地域の活動を活発化できる環境づくりを支援していくことが必要になると思われます。それと同時に、地域福祉のどの部分にどのような形で行政側が関わっていくのかを明確にしていく必要があります。

Ⅲ. 協働のまちづくりを進めるために（共助・公助）

社会福祉協議会への認知度と期待

図表 18 社会福祉協議会の認知度

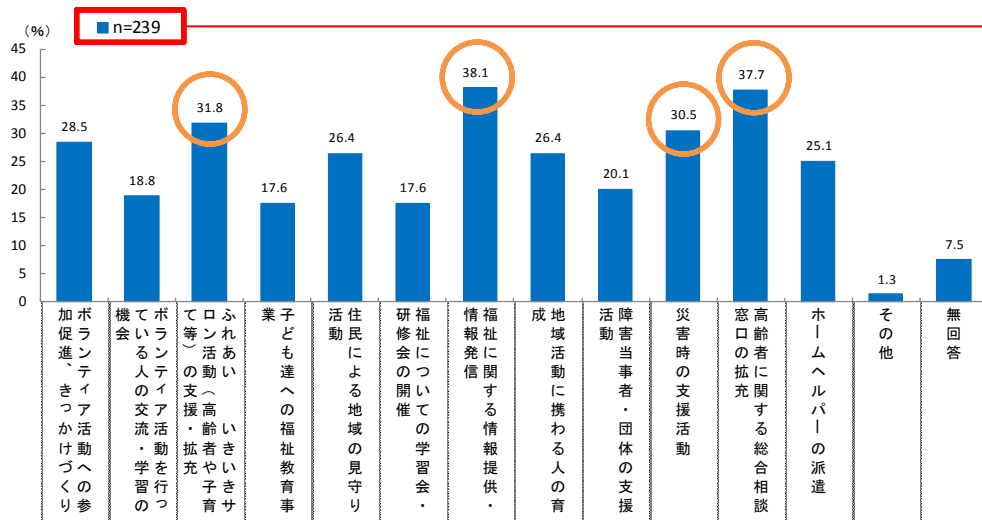


出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

「社会福祉協議会」を聞いたことがある人は、全体の約 8 割となっているが、詳しい活動内容を知らない人は、過半数以上となっています。地域福祉協議会の活動は、地域福祉の向上の要であるため、宣伝による認知度上昇ではなく、地域課題解決の際の支援者として、地域住民と関わり合いを通して認知度を高めていく必要があると考えられます。

社会福祉協議会に求めるもの

図表 19 社会福祉協議会が充実させていくとよいもの



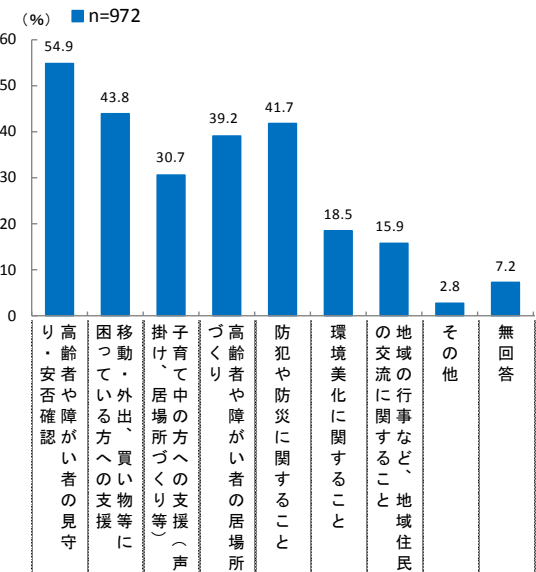
出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

社会福祉協議会に求めるものは、福祉に関する情報提供が最も高くなっています。また、高齢化が進む中で、高齢者に対する支援のニーズが高くなっていることがわかります。

「協働のまちづくり」を進めるうえで必要な取り組み

図表 20 協働のまちづくりに向けて必要な活動

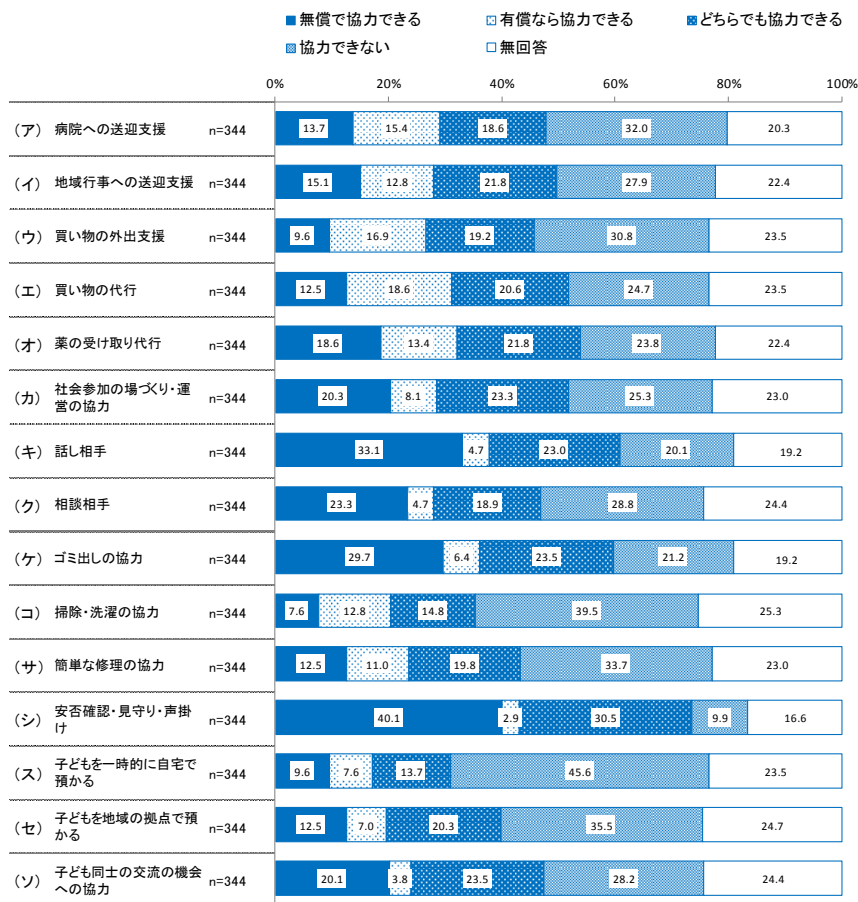
半数以上の人が高齢者や障がい者への見守り・安否確認が必要と答えています。次いで移動・外出、買物等に困っている人への支援となっており、日常のお困りごとに対してどのような支援体制を各地域で作っていくのかが焦点となっています。また、防犯や防災に関することに対してもニーズが4割をこえており、地域住民だけでなく、行政のハード面の整備も重要です。



出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

共助による「協働のまちづくり」に向けて

図表 21 協力可能な活動について



出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

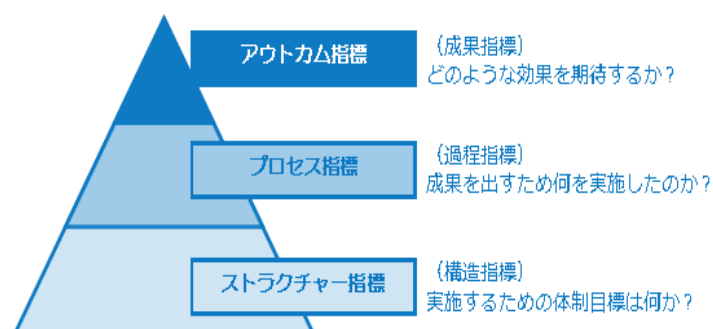
協働のまちづくりで最も高かった、「高齢者や障がい者の見守り・安否確認」を補助するものとして、「安否確認・見守り・声掛け」を協力できるが73.5%となっており、共助を用いた地域福祉活動の一步としては、「安否確認・見守り・声掛け」が中心になると思われます。

IV. 地域福祉の前進を評価する

地域福祉を進めていくために PDCA サイクルを回す必要がとなります。特に行動に対しての「check (c)」部分が改善サイクルのカギといえます。地域の変化と影響をより正確に分析するためにも、この点を明確にしておく必要があります。

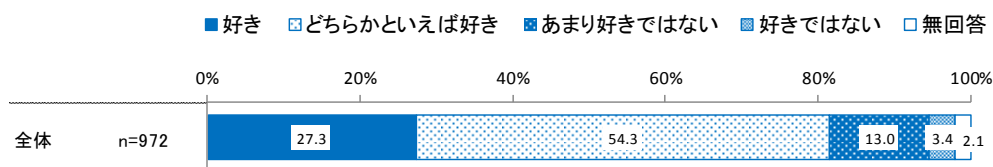
PDCA サイクル重点化のための指標設定「階層構造化指標」

計画に則って進めていくべき指標を以下のように3層構造化し、最終的なアウトカム指標の達成へつながる取組みができているか計るものです。

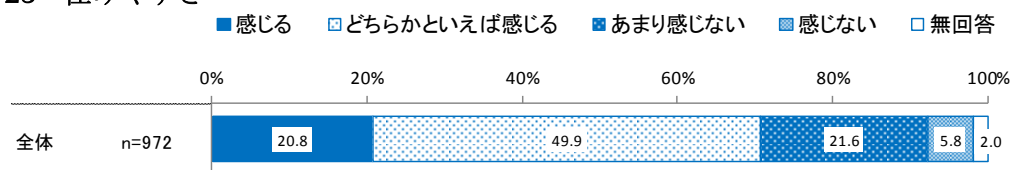


地域へ愛着度、住みやすさ、信頼度（アウトカム指標例）

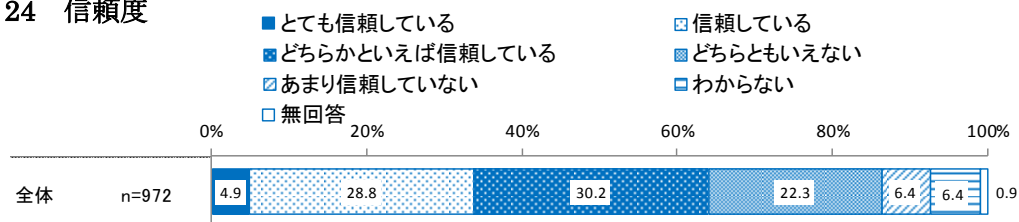
図表 22 愛着度



図表 23 住みやすさ



図表 24 信頼度



出典：平成 28 年度美浜町地域福祉アンケート

V. 総括

- (1)美浜町では、少子高齢化が進み高齢者の割合が高くなっています。それに伴い、「社会福祉協議会への要望」や「協働のまちを目指すために必要なこと」として、「高齢者への支援」がキーワードとして挙げられています。また、7割以上の地域住民が協力できる事として、「安否確認・見守り・声かけ」をあげており、地域住民と協働支援体制を進めていく一つの柱になると考えられます。
- (2)各地域別の人口構成をみると、人口が1,000人以上の地域が8地域あるのに対して、300人以下が6地域となっています。また、ほとんどの地域で人口が減少しているものの、北方については人口が増加傾向にあります。Iターン者については、どの地域においても半数以上を占めており、美浜緑苑では9割以上となっています。そのほかにも大学生や外国人、医療関係機関で働く人や特別養護老人ホーム入所者など様々な形で地域に関わる人々も存在します。以上のように地域福祉を支える住民の構造・背景は様々なため、それぞれの地域特性になじむよう、地域住民主体で取り組みを実施することが必要になると思われます。
- (3)地域福祉を支える重要な視点として「地域住民間の信頼関係の醸成」が挙げられます。美浜町の現状として、地域間のつながりは比較的良好なものの、地域内での課題解決や地域活動、ボランティア活動は比較的活動ではないということがわかりました。今後は、地域住民同士のつながりという強みを生かしながら、地域住民同士で地域課題に向き合い、地域の活動を活発化できる環境づくりを支援していくことが必要になると思われます。
- (4)地域福祉を充実させるために、公助（行政）の力は重要なものとなります。財政面においては弾力性が低くなっているものの、福祉施設・サービスのさらなる充実が地域住民側の声として上がっています。地域福祉に関する施設自体はバランスよく地域に設置されているため、地域住民のニーズを精査し、優先順位を考慮した支援を、計画的に実施していく必要があると考えられます。